

## 県版学力調査の分析共有から見えてきた課題

先週の校内研修では、「高知県学力定着状況調査」の自校採点による分析の共有を行いました。各教科から挙げられた課題をもとに、**教科共通の課題**について学年部で話し合い、それをもとに次のように整理しました。

- ① 他の場面でも活用できる意味的理解をともなった知識の習得と定着。
- ② 聞いたこと・読んだこと・資料等を根拠に、その内容と関連付けながら自分の考えを表現する。  
また、その根拠が正しいのか批判的に考えたり、他者の考えを読み取ったりする。
- ③ 自ら問題を発見し、日常事象と関連付けて、問題解決の見通しをもつ。(探究力を付ける)

この課題を改善するために、各教科では次の手を打っていきます。

学期末や冬休みも各教科で協議・確認しなければならぬことが多いですが、よろしくお願いします。

「**教科共通課題に関する各教科の課題と今後の取組**」(12/27 入力済み)

「**全国調査までのスケジュール**」(1/10 入力済み)

## OJT 研修・メンターチーム会より



【講話依頼内容】 部活動について (平岡先生)

- ① 主任として部活動顧問に求めること
- ② 公式戦のメンバーの選び方 (学年と実力のバランス)
- ③ 指導するうえで心がけていること
- ④ 大会やイベント等に向けて、生徒の意欲ややる気を引き出すときは、どんな指導をしているか。

①～④の講話を通して、部活だけではなく、教科指導や学級指導などの経営にも通じるキーワードをたくさん聞かせていただきました。ここで少し紹介させていただきます。

- ②に関して 1年生でも使えると思ったら使う。社会に出たらそうだから。常日頃から競争。しかし、しんどい生徒には手をさける。しんどい子も大事にする。サプライズを用意する (シンデレラボーイ: 日頃の頑張りを認めて次のスタメンに)。切磋琢磨を1・2年生にも見せる。
- ③に関して 全部は教えない (特に男子には)。3割は教え、7割は考えさせる。自分でやって達成感・成功体験を味わわせる。教師の意図がないと生徒は伸びない。子供の良いところを引き出す。ボスは動かない。指示をする。全体を見れるようにする
- ④に関して 指導者としてドンとしたものを持っておく。自分に迷いがあれば失敗する。



【講話依頼内容】 特別支援について (有田先生)

- ① 特性に応じた支援を行う上で心がけていることや、大変なこと・難しいこと
- ② 学習や読み書きが苦手な生徒をどのように授業に参加させるか

有田先生からは、通級に通っている生徒たちの通級での様子や、実際に使っているワークシート等も見せていただきました。また、外部専門機関とどのようにつながって支援できるかについても資料をもとに説明いただきました。

- ①に関して ・課題は見えるが、その生徒に何をすると良いか、どう支援できるかについては、その生徒の認識の仕方などの特性を考えながら試行錯誤しながら取り組んでいる。また、生徒が何に困っているか、コミュニケーションを取りながら進めている。
- ②に関して ・褒めることを心がけたり、話をして気持ちをほぐしてから課題に取り組ませたりしている。  
・学級全体の中での支援として、他の生徒とは別のプリントを用意し、その生徒にはキーワードだけ書かせるという方法もある。また、発表に関しても、一度その発表内容を聞いて自信を持たせてから指名するようにすると良い。  
・テストをペーパーではなく、タブレットですると以前より得点が伸びた生徒もいる。その生徒に力がないわけではないことが把握でき、どうすれば力が発揮できるかなどを考えていく必要がある。